

## 日本史

[出題の意図]

### 問題 I

古代から近世における建造物の問題を通じて、社会、文化、政治、宗教に関する諸問題について理解できているかどうかを問うものである。

問1 古墳時代中期に大陸からの影響でかまどが作られるようになり、甑を用いて食料を蒸すことができるようになったことが理解できているかどうかを問うものである。

問2 ア：掘立柱建物 イ：倉庫

問3 仏教建築においては、基壇上に礎石を据え、その上に柱を立てる礎石建物が造られたことを理解できているかどうかを問うものである。

問4 史料を読んで、大極殿が、天皇が臣下の拝礼を受ける元日朝賀などの儀式を行っていたことが理解できるかどうかを問うものである。

問5 鑑真が、戒律を伝えるために日本に渡ってきたこと、これに対して最澄は独自の大乘戒壇の設立を目指したことを理解できているかどうかを問うものである。

問6 菅原道真の事績として、遣唐使停止を建議したこと、『菅家文草』を著したこと、『日本三代実録』や『類聚国史』を編纂したこと、また、死後に天神として信仰の対象となったことを理解できているかどうかを問うものである。

## 問題Ⅱ

史料や絵図に基づいて、中世の農業について理解できているかどうかを問うものである。

- 問1 (1) 史料に即して、鎌倉幕府組織の基礎的理解を問うものである。  
(2) 二毛作と年貢徴収に関する基礎的知識と、史料の読解能力とを問うものである。
- 問2 (1) 絵図史料の立地を通じ、中世の熊野に関する知識を問うものである。  
(2) 絵図史料を通じ、中世農村における荒野と、近世農村における用水との対照に関する考察力を問うものである。

### 問題Ⅲ

江戸時代の支配について、武士が百姓を支配する（幕府・大名が村を支配する）ところに基礎を置いていたことが理解できているかを問うたものである。

幕府・大名は村から米納年貢を徴収して支配を行うための原資とした。米納年貢を原資としたがために、その豊凶によって収入は不安定であり、また換金する必要もあったから米と貨幣とのあいだの相場が高下することによっても収入は不安定となった。そのため、支出を抑制してみたり、年貢増徴以外の増収を目論む施策が模索されたりした。また、江戸時代の支配については、武士が百姓を暴力的に抑え込んできたとするかつての理解から、現在では、武士が百姓の再生産を積極的に保障しながら支配を継続させようとしてきたとする理解へと変遷を遂げてきた。

問1 ㉗定免 ㉘検見

定免法は一定の期間は年貢率を固定するのに対し、検見法は年々の収穫を実際に確認しながら年貢率を変える。

問2 5%

問3 有力商人に御用金を賦課したり、商工業者に冥加金を付加するなど、都市住民に対する課税を強化して収入を増加させる。

問4 寛永飢饉で多くの百姓が餓死し、米納年貢制度そのものが脅かされた。そこで百姓の生活を守ることを優先課題とするよう支配者の考え方が転換した。

## 問題IV

近現代の生活・文化について理解できているか問うものである。

- 問1 横浜・神戸が開港地と定められ居留地がおかれたことにより、西洋文化の流入口となったことを理解しているか問うものである。
- 問2 西洋文明の摂取により近代化を進めるなかで、西洋の基準に合わせてそれまでの習慣や風俗も改められていったことを理解しているか問うものである。
- 問3 太陽暦の受容をめぐる農村部への影響について理解できているか問うものである。
- 問4 GHQによる占領政策について、特に、メディアや表現の自由に関する知識を問うものである。
- 問5 戦後の内閣における政策について、図版から世相への影響を読み取り、その内閣と政策内容に関する知識を問うものである。
- 問6 戦時期における文化やスポーツに関する政策内容について、その時期に関する知識と史料の読解を総合し、そこから説明できる能力を問うものである。